

言語研究における対照研究の位置づけについて

井上 優 (国立国語研究所)
mainoue@ninjal.ac.jp

1. 本発表で述べること

- I 言語の対照研究は、複数の言語を「比べて考える」ことにより、個別言語において起こっていること、および言語一般について考える視点を、より具体的な形で見出す研究である。(一つの研究領域というより言語研究内部でのスタンスのとり方。)
- II 個別言語研究と一般言語学(言語類型論)を結びつけるには対照研究が必要不可欠である。「個別言語研究室」と「一般言語学(言語類型論)研究室」の間にある廊下のような存在。

一般言語学 (言語類型論)				
(言語対照研究)				
日本語研究 [日本語論]	中国語研究 [中国語論]	韓国語研究 [韓国語論]	英語研究 [英語論]	...

2. 「対照研究」とは何か (井上 2001, 井上 2002a)

- ・「比較対照」は研究の「方法」である。
日本語研究, 文法研究 (研究対象), 実験研究, 計量研究, 対照研究 (研究方法)
- ・「比較対照」の一般的な目的 (→方法には目的あり!)
他者を鏡として, ある物事の特徴や, ある現象が持つ意義を具体的にとらえる。
- ・「比較対照」の3つの側面
(i)よく観察する。(ii)特徴を際立たせる。(iii)全体の中での位置を知る。
- ・個別言語研究における比較対照 (→「使い分け」問題)
例: 「は」と「が」, 「と, ば, たら, なら」...
- ・複数の言語を比較対照する理由
 - 1) 個別言語が持つ性質の中には, 他の言語と比較してはじめて明確にとらえられるものが少なくない。
 - 2) 個別言語に見られる現象が持つ言語学的な意義も, 他の言語と比較してはじめて正確に把握できることが少なくない。

○日本語と韓国語の過去形の「発見」用法（井上・生越 1997）

(1) (名簿で井上の名前を探している)

- a. えーと、井上、井上…。 あった。 (発見のタ)
 b. iss-ta. / #iss-ess-ta. (Yale 式ローマ字表記)
 ある あった (#: 当該文脈での使用不自然)

(2) (探しても見つからなかった傘が予想外の場所で偶然見つかった)

- a. yeki iss-ess-ney. (伊藤 1990: 文脈追加)
 あ ここに あった 詠嘆

(3) (探しても見つからなかった傘が予想外の場所で偶然見つかった)

- a. あ, (よく見たら) ここにあった!
 [→見たら～であるのが見えた]
 b. あ, (本当は) ここにあったのか。(勘違いしていた。) (= (2))
 [→発話時以前の認識を修正する]

・比較対照しなければ…,

日本語, 韓国語の過去形には「発見」の用法がある。なぜか?

・比較対照すると…,

日本語の過去形の発見用法は「見たら～であるのが見えた」という意味だが, 韓国語の過去形の発見用法(と日本語の「～だったのか」)は「発話時以前の認識を修正する」という意味である。各用法を支えるメカニズムとは何か?

(4) (子供が生まれて, 病院から実家に電話をかけた。子供の性別を聞かれて)

- a. 男だよ。 / 男だったよ。
 b. atul-ieyyo. / #atul-i-ess-eyo.
 男の子です 男の子でした

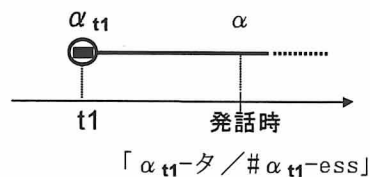
(5) (マラソンでトップの選手の姿が見えた。走ってくる選手を見ながら)

- a. 来た。
 b. o-nta. / #wass-ta. cf. kyewu wass-ta. [眼前の移動に関心なし]
 来る 来た やっと 来た

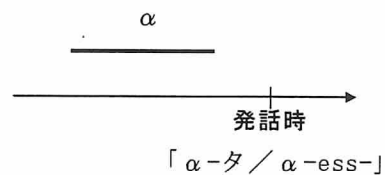
・日本語: 現在知覚されている状態 α が知覚された最初の瞬間, あるいは動作 α が開始された最初の瞬間だけを, 独立の過去の状況として叙述できる。

・韓国語: 状況が直接知覚されなくなった(話し手が一定の完結感を感じた)後に, 状況全体が過去の状況として叙述される。

(6) a.



b.



○日本語と中国語の継続相形式 (井上・生越・木村 2002)

- (7) a. 彼を待っている。 / 等着 他。 [動作継続] (着 zhe : 継続)
待っている 彼
- b. 門が開いている。 / 门开着。 [結果状態維持]
門 開いている
- c. 死んでいる。 / 死了 (*死着)。 [結果状態残存] (了 le : 完了)
死んだ (* : 非文法的)
- (8) a. 彼を3時間待った。 / 彼を待ち続けた。
 b. 門が3時間開いた。 / (この間ずっと) 門が開き続けた。 [状態維持]
 c. *3時間死んだ。 / *死に続けた。
- (9) a. 彼を3時間 {待った / 待っていた}。
 b. {等了 / *等着} 他 三个小时。 (→閉じた形の事象。限界点あり)
待った 待っている 彼 3時間

・比較対照しなければ…,

「日本語の変化動詞の継続形は〈結果状態〉を表す」「『3時間待っていた』は過去の動作継続を表す」というだけ。

・比較対照すると…,

「変化動詞に継続形がある」「事象の形がアスペクトの選択に関与しない」ことが日本語のアスペクトの(重要な)特徴である。

・中国語の動詞接尾辞“了/着”によるアスペクト → 「事象の形」が基盤

・日本語の「スル/シテイル」によるアスペクト → 「事象と時間との関係」が基盤

・「テンスを持つ言語のアスペクト」 vs. 「テンスを持たない言語のアスペクト」

3. 対照研究のタイプ (井上 2002a)

1) 分析型 (分類整理型)

言語間の類似と相違を共通の枠組みのもとで整理して記述する。

2) 統合型 (類型設定型)

言語間の類似と相違の背景にある一般的な原理や傾向性を見出す。

3) 関連づけ型

異なる言語に見られる現象の間に一定の関連性を見出す。

3.1. 分析型の対照研究: 「そうですか」と“是吗 shima?” (井上優 2002b)

(10) 甲: 田中さんと夢子さんが来月結婚するんだって。

乙: a. そうですか。(そうなんですか)。それはめでたい。

b. 是吗? 那太好了。

そうですか それ すごくよい

- (11) 甲：カゼをひいてしまったので、今日は休みます。
 申し訳ありませんが、王さんにそのようにお伝えいただけませんか。
 乙：（「事情はわかった」という気持ちで）
 a. そうですね（そうなんですか）。わかりました。
 b. {好的。/#是吗？} 知道了。
 了解 そうですね わかりました
- (12) 甲：我今天感冒了，不能去上班。（今日はカゼをひいたので、出勤できません。）
 乙：是吗？（あ，そうなんですか。）
 甲：请您跟老王说一声。（王さんにそのようにお伝えください。）
 乙：好的。知道了。（はい，わかりました。）
- (13) 未知情報との接触（半信半疑）……“是吗？”
 ↓
 未知情報の仮認定（知識調整）……「そうですね（そうなんですか）。」
 | 「Sのか。」／“S啊。”
 ↓
 新規情報としての正式受容……「わかりました。」／“知道了。”

3.2. 統合型の対照研究（1）：アニメーション型叙述とスライド型叙述（井上(印刷中)）

- ・日本語の「スル／シタ」（アニメーション型叙述）
 「事態を時間の流れの中でとらえる」という動的叙述性が明確
- ・韓国語の「hanta（スル）／hayssta（シタ）」（スライド型叙述）
 「こういう事態がある／あった」という形で事態の存在を総括的に叙述するのみ。

(i) 完成相形式（スル／シタ，hanta／hayssta）の意味

- (14) a. 日本に来られる前は、何をしましたか？（→来日までの経過・経歴）
 b. 日本に来られる前は、何をしていましたか？（→来日までの職業）
 c. ilpon-ey o-si-ki cen-ey-nun, mwues-ul hasyess-supnikka?
 日本-に 来られる 前-に-は 何-を されましたか
 （→来日までの職業を問うという解釈可能）

(15)（来日直前まで従事した職業を述べる）

- a. 大学で日本語を教えていました（#教えました）。
 b. tayhak-eyse ilpone-lul kaluchyess-supnita.
 大学-で 日本語-を 教えました

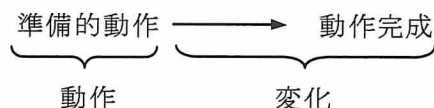
(ii) 可能形の意味（井上 2009b）

- (16) a. 今日は3キロ泳いだ。（3キロという距離を出した。）
 b. 今日は3キロ泳げた。（努力の結果，3キロという距離が出た。）

- (17) a. シタ (主体が動作完成を実現させた)



- b. デキタ (意図成就：主体の意図どおりに動作完成が実現した)



(17a) (17b) : プロセスは異なるが、全体として見れば結果は同じ。

- (18) a. 運よくバスに乗れた (#乗った)。
b. wun-coh-key pesu-lul thass-ta. (直訳：運よくバスに乗った)。
運よく バスを 乗った

- (19) (電車でやっとあいた席に腰かけて)
a. やっと座れた (#座った)。
b. kyewu anc-ass-ta. (直訳：やっと座った)。
やっと 座った

(iii) 複合動詞

- (20) a. 着替える / 바뀌 입다, 갈아입다 (直訳：替えて着る)
b. 書き分ける / 나누어 쓰다 (直訳：分けて書く)
c. 聞き流す / 흘려듣다 (直訳：流して聞く) (生越 1984, 塚本 2009)

日本語の複合動詞：アニメーションで「動作→結果」というプロセスを叙述。
(→服が替わる, 書き方が分かれる, 止まらず流れる)

韓国語の複合動詞：1枚のスライドで「動作」の存在を叙述。
(→別のものを着る, 別々の形で書く, 止まらずに聞く)

3.3. 統合型の対照研究 (2) : 内骨格型言語と外骨格型言語 (井上 2006)

中国語には文法カテゴリーとしてのテンスはない。

- (21) a. 他 去年 在 北京 工作。(彼は去年北京で働いた (働いていた。)) [過去]
b. 他 現在 在 北京 工作。(彼は現在北京で働いている。) [現在]
c. 他 明年 到 北京 工作。(彼は来年北京で働く。) [未来]

- ・テンスは、事象と時間とを結びつけ、事象を個別具体的なデキゴトにする。
- ・テンスを有する日本語は、個別具体的なデキゴトを述べるようにできている。
[内骨格型言語]
- ・テンスのない中国語では、事象の個別具体化 (デキゴト化) のために様々な手段がとられる。テンスを有する日本語では、その必要はない。[外骨格型言語]

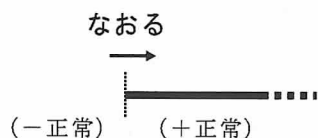
(i) 副詞による具体化

- (22) a. 冬天 冷。(冬は寒い) [本質的屬性による分類]
b. 这个教室 大, 那个教室 小。(この教室は大きい, あの教室は小さい)
[他との対比・比較による分類]
c. 今天 天气 很 好。(今日は天気がよい) [個別具体的な状態の描写]
(とても)
- (23) a. 你 说 得 慢 点 儿, 我 就 能 听 懂。 [推移]
あなた 話す ゆっくり 私 (すぐに) 可能 聞いてわかる
(ゆっくり話してくれると、聞き取れます。)
b. 你说得慢点儿, 我能听懂, 说 得 快 了, 我 听 不 懂。 [対応関係]
話す 早い 私 聞いてわからない
(ゆっくり話してくれれば聞き取れるが、はやく話されると聞き取れない。)

(ii) 「動作－結果」の複合動詞

- (24) a. 病気が治った。(治療の結果治った。/自然に治った。)
b. 病 治-好 了。/病 好 了。
治療する-よい
- (25) a. 自転車直った。(修理の結果直った。)
b. 自行车 修-好 了。/*自行车 好 了。
自転車 修理する-よい
- ・「変化」は時間の推移の中でのみ存在可能である。「変化前→変化後」
 - ・日本語は動詞自体が時間の推移の意味を含み、動詞自体が「変化」を叙述する。
 - ・中国語で「変化」を叙述するには、「動作」と「結果」の2つに言及して時間の推移を表すことが必要。

(26) 「なおる」



- (27) a. “治好了”(治療してよくなった) b. “好了”(自然によくなった)
“治” → “好” (自然力) → “好”

(iii) 文としての「すわりのよさ」

- (28) 井上 現在 在 学习 汉语。(井上は今中国語を勉強している。)
継続
- (29) a. 井上 现在 在 学习 汉语 呢。(井上は今中国語を勉強しているよ。)
静的場面
b. 井上 现在 在 学习 汉语, 很 忙。(井上は今中国語を勉強していて忙しい。)

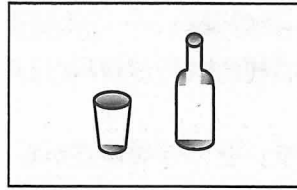
(28) : 出来事の内容を述べるだけ。

(29) : 具体的な時空間をともなった「状況」「情景」の叙述。

(30) a. 個体



b. 状況 (情景)



3.4. 関連づけ型の対照研究：話し手自身に対する敬称使用 (井上 2009a)

(31) (知人に電話をかけて)

喂， 我是 老黄。(もしもし，黄 (#黄さん) です。)

もしもし 私 だ

(32) (父兄に対する手紙で)

你好！ 我是 边老师。(こんにちは。ピエン (#ピエン先生) です。)

(33) (王主任が職場の部下に電話で)

喂，我是 王主任。(もしもし，王 (#王主任) です。)

(34) a. (サンタクロースが子どもに)

みんな，サンタさんだよ。

b. (サンタクロースが子どもの親に)

はじめまして，サンタ (#サンタさん) です。

(35) a. (幼稚園の先生が幼児に)

もしもし，ゆう子先生ですよ。

b. (幼稚園の先生が幼児の親に)

もしもし，井上 (#井上先生) です。

・「話し手自身に敬称を使う」＝「相手が自分を呼ぶように自分を呼ぶ」

・なぜ相手が自分を呼ぶときの呼び方を用いて名のることが、日本語では子ども相手の発話になり、中国語では必ずしもそうならないのか？

ヒント：富山方言の「ネー」の疑似共感用法 (井上 2004)

(36) (いっしょに重い荷物を運んだ聞き手に)

a. いやあ，重かったねえ。(共感)

b. イヤー，重カッタネー。

(37) (自分のために重い荷物を運んできてくれた聞き手に)

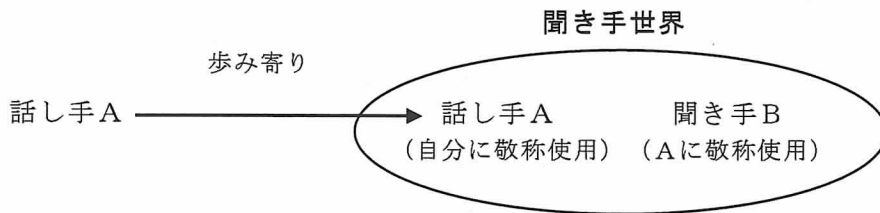
a. #あなた，重かったねえ。 cf. あなた，重かったですよ。(推察)

b. アンタ，重カッタネー。(→聞き手と心理的に同化し，負担を自分でも感じてみせて，関係修復を図る。疑似共感用法)

(38) (話し手が連れていた犬に吠えられて泣き出した幼児をなだめて)
あ、怖かったねえ。ごめんね。

- ・標準語：聞き手の領域に一方的に立ち入ることはできない。(子どものように、話し手の側から一方的に歩み寄らないといけない場合を除く。)
- ・富山方言：心理的同化が埋め合わせの気持ちを表す方略として使える。
- ・「子ども相手」という共通点から、日本語の話し手自身に対する敬称使用も「聞き手への心理的同化」にもとづくと考えるのが自然。

(39) 聞き手との心理的同化(歩み寄り)



- ・「話し手自身に対する敬称使用」に関する日中両語の相違の背景
可能性1：「聞き手への心理的同化」が許される範囲が異なる。
可能性2：「話し手自身に対する敬称使用」のしくみが(一部)異なる。
- ・中国語でも、名のり以外の場合は、話し手自身に敬称を用いると相手を子ども扱い。

(40) a. (教師が小学生に)

有不懂的地方，随时都可以来问老师啊。

(わからないところがあったら、いつでも先生に質問してくださいね。)

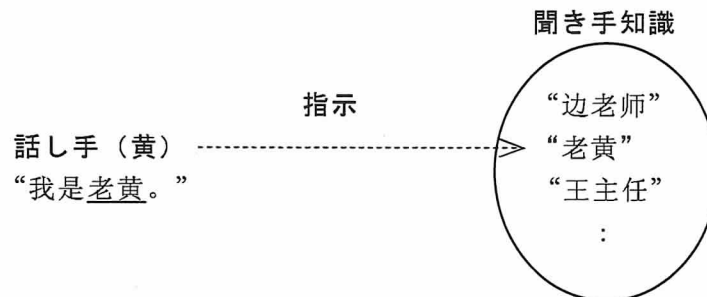
b. (教師が生徒の親に)

对自己的孩子如果有什么担心的地方，请和我(#老师)联系。

(お子さんについて心配なことがあったら、私(#先生)にご連絡ください。)

- ・日本語：話し手自身に対する敬称使用はすべて「聞き手への心理的同化」による。
- ・中国語：名のり以外の場合は「聞き手への心理的同化」によるが、名のりの場合は「身内感覚にもとづく呼称共用」による。

(41) 身内感覚にもとづく「呼称共用」



- ・名のりは聞き手に話し手を同定させるための発話であり，聞き手知識中の話し手自身を指示するのは，聞き手に話し手を同定させるには効率的。
- ・日本語では，話し手に対する敬称を用いる権利は話し手以外にあり，聞き手知識中の話し手自身を指示するのは，聞き手の呼称使用権の侵害となる。よって，話し手自身に対する敬称使用はもっぱら聞き手との心理的同化による。

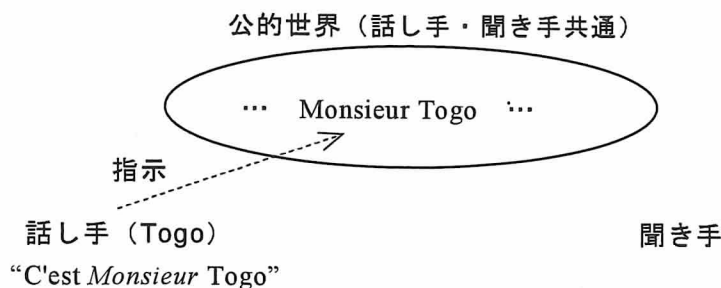
(42) 日本語の名のり



- ・名前を用いた名のりは，日本語と中国語でしくみが異なる可能性あり。
日本語「もしもし，黄です。」(→話し手自身を指している)
中国語“喂，我是黄丽华。”(→聞き手知識中の話し手自身を指示?)
- ・指示詞の体系との類似性
日本語：聞き手領域にある対象はもっぱら「ソ」で指示。(対立型)
中国語：「ソ」にあたる指示詞がなく，話し手に近いと認識される対象は，聞き手に近いものでも近称“这”で指示。(包含型)
- ・名のりにおける敬称使用のタイプ
 - ①「聞き手との心理的同化」によるもの(日本語)
 - ②身内感覚にもとづく「呼称共用」によるもの(中国語)
 - ③敬称使用による「公共性付与」によるもの(フランス語，英語)

- (43) a. *Ici, c'est Monsieur Togo.* (もしもし，こちら東郷です。)
b. *This is Mr. Smith speaking.* (こちらはスミスです。)

(44) 敬称使用による「公共性付与」



4. 個別言語研究, 言語対照研究, 一般言語学 (言語類型論)

- ・言語一般について考えるためには, 個別言語に関する記述が「適度な一般性」と「適度な具体性」をかねそなえていなければならない。(→未整理の情報, 漠然とした情報からは物事を考えにくい。)
- ・言語一般を意識しながら個別言語において起こっていることを具体的に考えるためには, 記述の枠組みが「適度な一般性」と「適度な具体性」をかねそなえていなければならない。(→細かすぎる枠組みは応用がきかない。大まかすぎる枠組みは過不足ない記述がしにくい。)
- ・2つ(あるいはそれ以上)の言語の類似と相違が「自然」かつ「具体的」な形で説明できれば, 「ある程度の一般性」と「ある程度の具体性」をかねそなえた記述, 枠組みであると言える。
- ・言語の対照研究は, 知りうる範囲で「適度な一般性」と「適度な具体性」を追求する研究である。
- ・言語の対照研究は「言語研究者のコミュニケーションの場」である。

引用文献

- 伊藤英人 (1990) 「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1) -hayssta 形について-」『朝鮮学報』137, 朝鮮学会
- 井上優 (2001) 「日本語研究と対照研究」『日本語文法』1-1, くろしお出版
- 井上優 (2002a) 「言語の対照研究」の役割と意義, 国立国語研究所編『日本語と外国語との対照研究X 対照研究と日本語教育』くろしお出版
- 井上優 (2002b) 「是吗?」に関する覚え書, 定延利之編『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房
- 井上優・生越直樹 (1997) 「過去形の使用に関わる語用論的要因-日本語と朝鮮語の場合-」, 国立国語研究所編『日本語科学』1, 国書刊行会
- 井上優・生越直樹・木村英樹 (2002) 「テンス・アスペクトの比較対照-日本語・朝鮮語・中国語-」, 生越直樹編『シリーズ言語科学4: 対照言語学』東京大学出版会
- 井上優 (2004) 「方言の終助詞が伝えるもの-富山県砺波方言の「ネー」の場合」『日本語学』23-9, 明治書院
- 井上優 (2006) 「日本語から見た中国語」『日本語学』25-3, 明治書院
- 井上優 (2009a) 「話し手自身に対する敬称・愛称の使用について」『日中言語研究と日本語教育』2, 好文出版
- 井上優 (2009b) 「動作」と「変化」をめぐって」『国語と国文学』86-11, 至文堂
- 井上優 (印刷中) 「言語場論からの接近: 日本語から見た韓国語」, 『韓国語教育学講座』くろしお出版
- 生越直樹 (1984) 「日本語複合動詞後項と朝鮮語副詞・副詞的な語句との関係-日本語副詞指導の問題点-」『日本語教育』52, 日本語教育学会
- 塚本秀樹 (2009) 「日本語と朝鮮語における複合動詞再考」, 油谷幸利先生還暦記念論文集刊行委員会編『朝鮮半島のことばと社会』, 明石書店